

学校における "well-being" のとらえ方

－中学生の達成感・孤独感にかかわるアンケート調査を中心として－

竹井成美・幸秀樹

筆者らは当初、音楽と美術は「生徒の文化的諸能力の向上や文化にかかわる価値観形成への寄与が濃厚であるとみなされる」とした。さらに助川氏の理論研究に沿って、well-being を、学校においては「達成感や満足感」とおきかえられるとし、他教科の中で「より well-being にかかわる」教科であるとして、「中学校音楽科・美術科における満足度調査」を行う予定であった。

調査に先立ち、まず2人の公立中学校の音楽教師に電話インタビューし、満足度調査の項目作成に役立てることにした。その内容は、「音楽の授業で達成感や満足感を生徒が味わう場面はどのような場面であり、その場面を設定するために教師はどのような工夫が必要か」というものである。

その結果は、次のようである。

- ・音楽には表現領域と鑑賞領域があるが、表現領域では、歌唱、器楽、創作の活動の過程を通して、一人でもグループでも、発表の場においてなんらかの感動が生まれたときに「達成感、満足感」が得られるのではないかと。教師は、同じ空間で感動を「共有する場」を設定する工夫が必要である。
- ・鑑賞領域では、CDで鑑賞する場合であっても、自分たちの演奏を鑑賞する場合であっても、その演奏が「いいな」と思うときに感動が生まれ「達成感、満足感」が得られるのではないかと。その感動の場を作る手だてが必要である。
- ・表現領域も鑑賞領域も、なんらかの形で教師に「ほめられる」ことが生徒に「達成感、満足感」を与える。
- ・教師も「楽しんでいる」という印象を生徒に与えることが必要である。また、他教科以上に、生徒と教師間、生徒と生徒間ののぞましい人間関係が必要である。さらに生徒が「わかった・できた」という瞬間を見逃さずに教師が「わかったね・できたね」と声かけが必要ではないかと。

この電話インタビューをもとに、次に、公立中学校の音楽と美術の教員2人に、筆者ら3人によるインタビューを行い、アンケートの具体的項目をしぼることにした。

さまざまな意見交換をする中で、音楽と美術は、個々の授業の達成目標を設定しても、他教科以上に、つねに「これで良いのかと問い続ける」教科であり、「自分自身を表現できる」教科であり、「集団の中で愚痴をこぼせる」「枠からはみでることが許される」教科であることなどを確認することになる。

これは、助川氏の前章「キー・コンピテンシーと "well-being"」で示されている内容にもつながるものではないかと考える。ここから少なくとも、音楽と美術は、本研究の出發で考えた「より well-being にかかわる」教科と言えるのではないかと考えた。

しかし、このインタビューを参考に「中学校音楽科・美術科における満足度調査」のための項目を作成し、前記音楽の教師とともに最終チェックをする中で、急遽、調査対象の教科（音楽と美術）と調査内容を変更することになる。すなわちチェックする中で、中学校で今まさにおきている「孤独感」の話題に触れることになったからである。それは、授業の間や昼休みに、一人ぼつんといる生徒の存在にかかわる話題であった。前章の助川氏の報告でも示されているが、日本の子どもの「孤独だと感じる」割合は29.8%にもものぼり、OECD 平均の7.4%に比しても、さらに最も低いポイントのオランダの2.9%に比してもかなり高い数値結果であり、世界1位でもあることが気になっていたこともある。さらに、同音楽教師によると、生徒の達成感は、授業の中でより、行事や部活動などの中で得られているのではないかと、という話におよび、中学校における「満足度調査」は、別紙のように、中学校全般にわたって、「達成感を感じたことがあるか」と、「つらいと感じたことがあるか」、「孤独を感じたことがあるか」の3項目を中心に行うことになった。

1 アンケート調査内容

以下は、アンケートの本文。

以下の設問について、当てはまると思う番号を丸でかこんで下さい。「その他」や「理由」は具体的に書いてください。

設問1. あなたは、中学校生活を振り返って、「達成感（やりとげたという感じ）」を感じたことがありますか？

- 1) 感じたことがある →設問2へ進む
- 2) 感じたことがない →設問5へ進む

設問2. 設問1で「感じたことがある」と答えた場面を、以下の項目から選んで下さい。

(複数回答可)

- 1) 各教科の授業などで感じたことがある 設問3へ進む
- 2) 学校行事を通して感じたことがある 設問4へ進む
- 3) 部活動を通して感じたことがある
- 4) 係活動などを通して感じたことがある
- 5) その他 ()

設問3. 設問2でそのように感じた教科などを以下から選び、その理由を書いて下さい。

(複数回答可)

- 1) 国語 2) 社会 3) 数学 4) 理科 5) 音楽 6) 美術
- 7) 保健体育 8) 技術・家庭 9) 外国語 10) 道徳
- 11) 特別活動 12) 総合的な学習の時間

理由：

--

設問 4. 設問 2 でそのように感じた行事名をあげ、その理由を書いて下さい。(複数回答可)

行事名：()

理由：

設問 5. 設問 1 で「感じたことがない」と答えた理由を以下から選んで下さい。(複数回答可)

- 1) 何かをやろうとする気力や体力がないから
- 2) 取り組みたいこと、やりとげようと思えることがないから
- 3) 一緒に取り組める仲間がないから
- 4) 目標に達成したことがないから
- 5) ほめてもらったり、認めてもらったことがないから
- 6) その他 ()

設問 6. あなたは、中学校生活を振り返って、「つらい」と感じたことがありますか？

- 1) 感じたことがある →設問 7 へ進む
- 2) 感じたことがない →設問 11 へ進む

設問 7. 設問 6 で「感じたことがある」と答えた場面を、以下の項目から選んで下さい。
(複数回答可)

- 1) 各教科の授業などで感じたことがある 設問 8・10 へ進む
- 2) 学校行事を通して感じたことがある 設問 9 へ進む
- 3) 部活動を通して感じたことがある
- 4) 係活動などを通して感じたことがある
- 5) その他 ()

設問 8. 設問 7 でそのように感じた教科などを、以下から選んで下さい。(複数回答可)

- 1) 国語 2) 社会 3) 数学 4) 理科 5) 音楽 6) 美術
- 7) 保健体育 8) 技術・家庭 9) 外国語 10) 道徳
- 11) 特別活動 12) 総合的な学習の時間

設問 9. 設問 7 でそのように感じた行事名をあげて下さい。(複数回答可)

行事名：()

設問 10. 設問 6 で「感じたことがある」と答えた理由を以下から選んで下さい。

- 1) 体力的にきついから
- 2) 与えられた課題や内容が難しいから
- 3) 友達関係がうまくいっていないから
- 4) ひとりぼっちだから
- 5) その他 ()

設問 11. あなたは、中学校生活で孤独を(ひとりぼっちだと)感じたことがありますか?

- 1) いつも感じる →設問 12・13 へ
- 2) 時々感じる →設問 12・13 へ
- 3) 感じたことはない→アンケートは以上で終わりです

設問 12. あなたは、どんな時に孤独を感じたことがありますか?

- 1) 登校してから授業が始まるまで (いつも感じる ・時々感じる)
- 2) 各教科の授業中 (いつも感じる ・時々感じる)
- 3) 休み時間や昼休み (いつも感じる ・時々感じる)
- 4) 放課後 (いつも感じる ・時々感じる)
- 5) その他 ()

設問 13. 具体的にどんな場面で孤独(ひとりぼっちだと)感じますか?

2 調査日時と調査校

調査日時；2009年12月14日

調査校；宮崎市立A中学校1年生161名

3 結果と分析

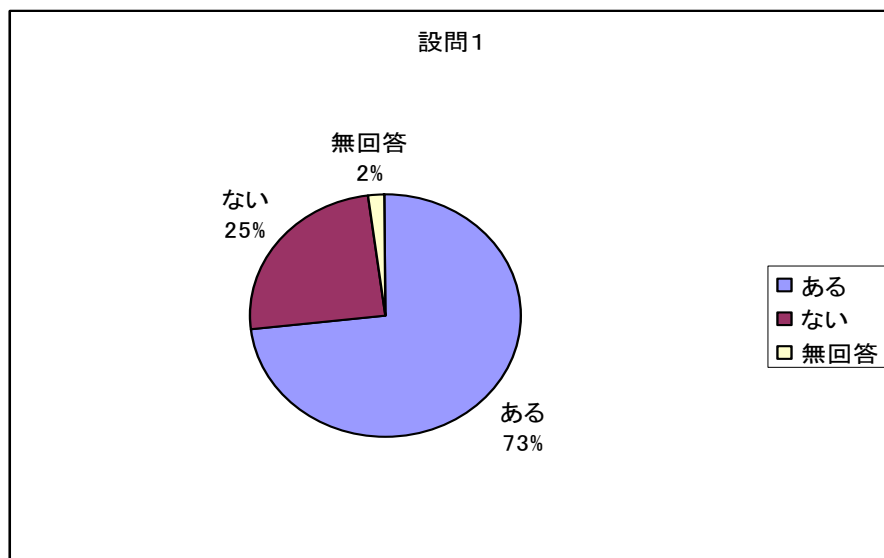
結果を単純に分析したものが次表である。

設問1

1) 感じたことがある→118人

2) 感じたことがない→40人

無回答 → 3人



設問2 (複数回答可)

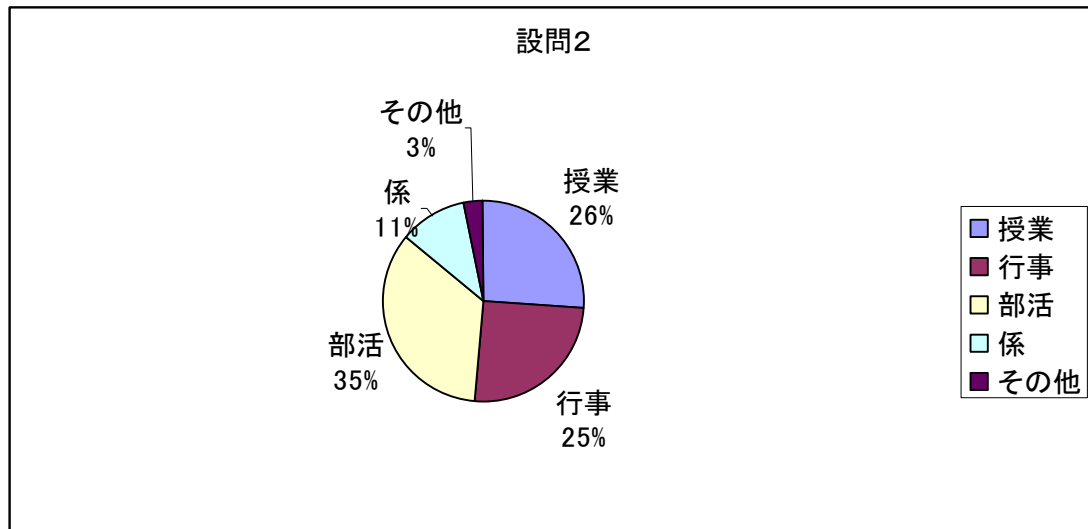
1) 各教科の授業→44人

2) 学校行事 →42人

3) 部活動 →58人

4) 係活動 →18人

5) その他 →6人 (習い事、クラブチーム、課外のクラブ活動、テストの番数、検定試験)



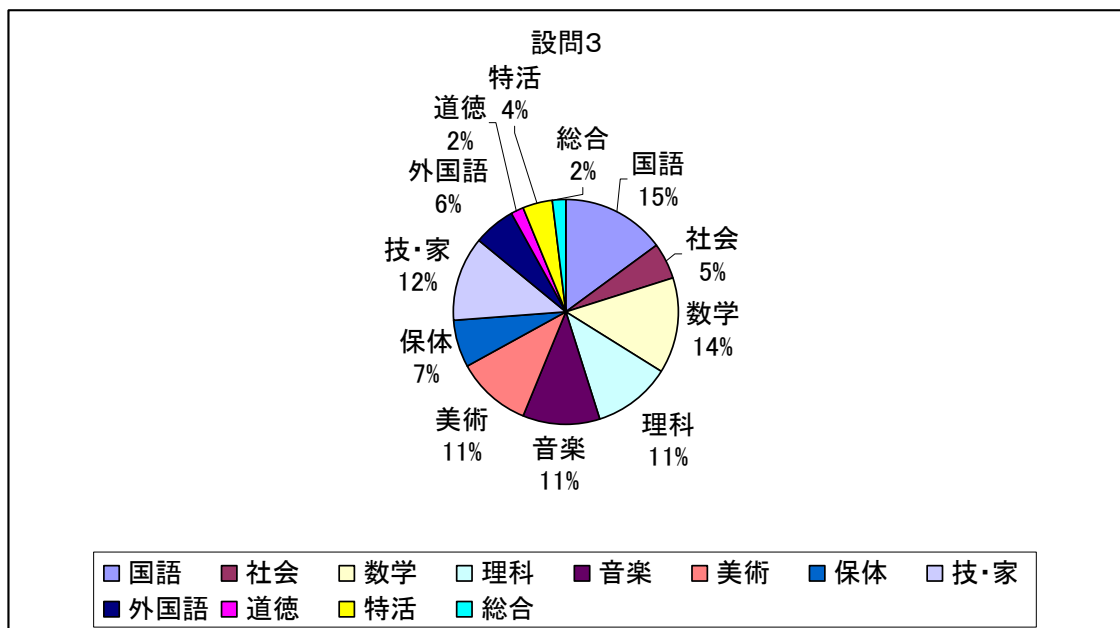
設問3 (複数回答可)

- | | |
|---------------|-------|
| 1) 国語 | → 14人 |
| 2) 社会 | → 5人 |
| 3) 数学 | → 13人 |
| 4) 理科 | → 10人 |
| 5) 音楽 | → 10人 |
| 6) 美術 | → 10人 |
| 7) 保健体育 | → 7人 |
| 8) 技術・家庭 | → 11人 |
| 9) 外国語 | → 6人 |
| 10) 道徳 | → 2人 |
| 11) 特別活動 | → 4人 |
| 12) 総合的な学習の時間 | → 2人 |

理由：

- ・ 分からなかったところが解決するとすごく達成感を感じる。
- ・ 一つの作品を仕上げたとき
- ・ 自分の考えがあっていたとき
- ・ 自力で問題が解けたとき
- ・ 時間をかけてものをつくったとき
- ・ マット運動で技ができたとき

- ・ 今までその日習ったことの復習などをコツコツしていて努力が実ったと感じたとき
- ・ 合唱コンクールで歌い終わったとき
- ・ 暗記できたとき
- ・ テストの点数がよかったとき
- ・ 前解けなかった問題が解けたとき
- ・ 挙手をたくさんしたとき
- ・ 楽器が吹けたとき



設問4 (複数回答可)

行事名：

●体育大会

→リーダーでみんなをまとめたり、練習に出て動いたりするのはきつかったが、最後はみんな笑って終わったから

→学年関係なくみんなで力を合わせてがんばったから

→勝ち負け関係なく終わったあと、みんなが笑顔だったから

合唱コンクール

→伴奏をやった時とても達成感を感じたから

→委員としてクラスをまとめ、役目を果たせたから

→クラスの団結が強くなったから

→練習したかいがあつていい結果がでたから

→みんなで毎日練習したか

大会や、公式戦、練習試合

→自分の努力を出せて達成感を感じられたから

奉仕作業

→いい汗をかいたから

係り活動

→最初は怒られっぱなしだったけど、だんだんほめられるようになったから

設問5 (複数回答可)

1) 5人

2) 16人

3) 1人

4) 17人

5) 5人

6) 6人

7) 6人

・やったとしてもできなかつたりするから

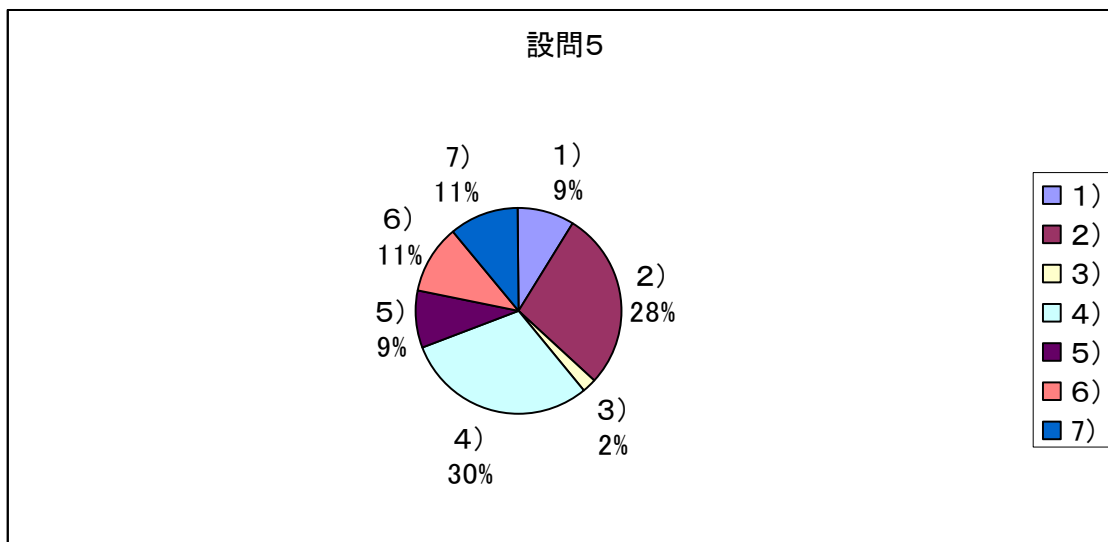
・中学と言ったら「体育大会」「文化祭」が主な行事だと思っていたけど、文化祭がなかったから

・めんどろだったから

・やり遂げてもあまり達成感がないから

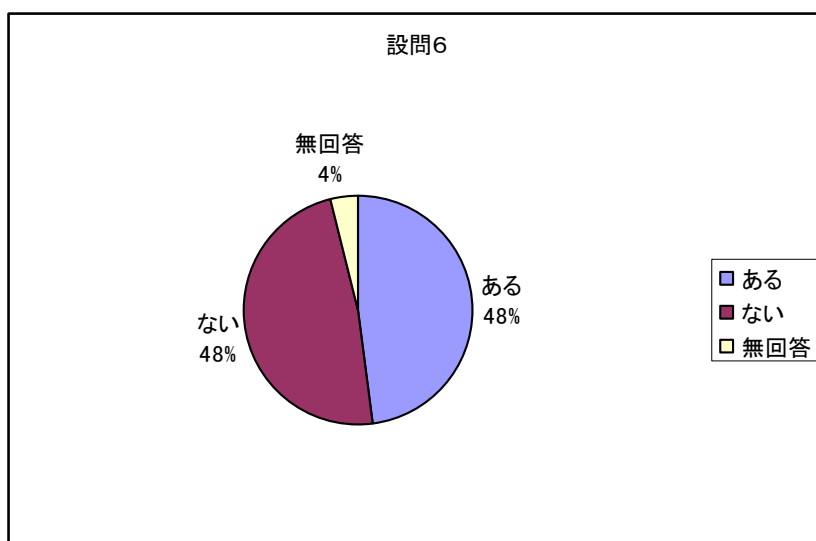
・目標まであと少し足りないから

・いつも授業におくれるから



設問6

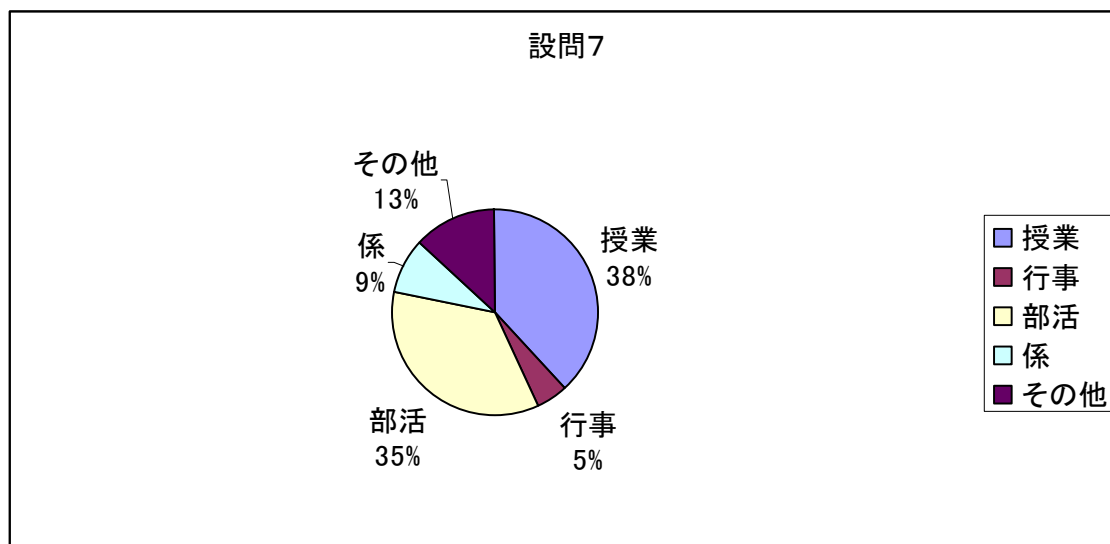
- 1) 感じたことがある→77人
- 2) 感じたことがない→77人
- 3) 無回答 →7人



設問7 (複数回答可)

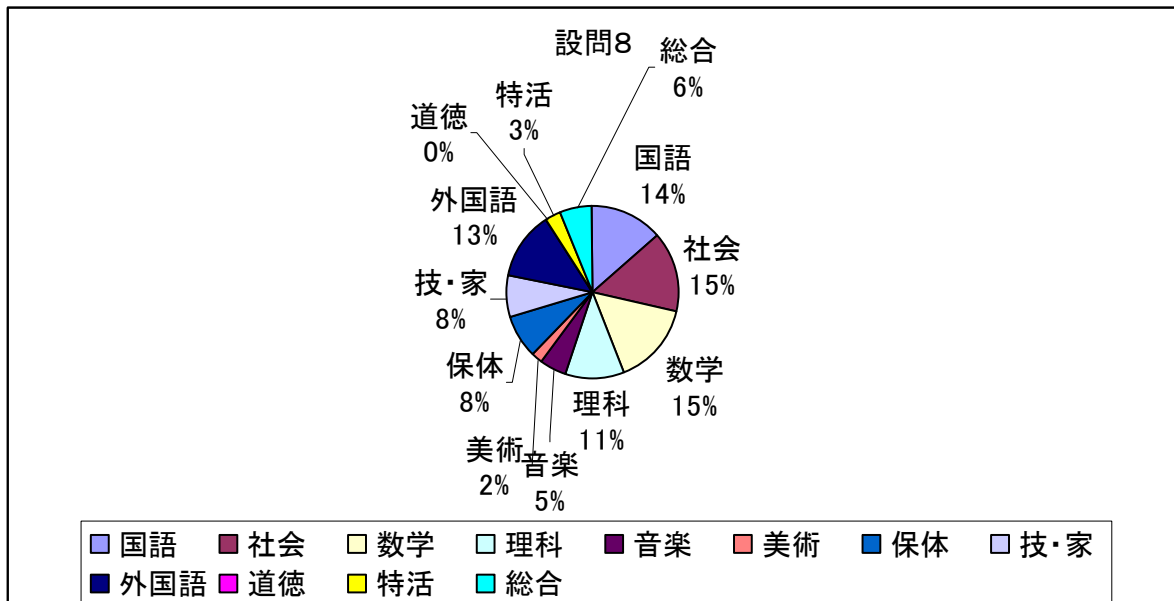
- 1) 各教科の授業→37人
- 2) 学校行事 →5人
- 3) 部活動 →34人
- 4) 係活動 →9人
- 5) その他 →12人 (学校生活、課外のクラブ活動、引っ越し、友人関係、友人の)

悪口を言われてそれを聞いているとき、友達がうまく作れない、宿題が多い、日頃の学生生活、起きる時間、家での勉強)



設問8 (複数回答可)

- | | |
|---------------|-------|
| 1) 国語 | → 11人 |
| 2) 社会 | → 12人 |
| 3) 数学 | → 12人 |
| 4) 理科 | → 9人 |
| 5) 音楽 | → 4人 |
| 6) 美術 | → 2人 |
| 7) 保健体育 | → 6人 |
| 8) 技術・家庭 | → 6人 |
| 9) 外国語 | → 10人 |
| 10) 道徳 | → 0人 |
| 11) 特別活動 | → 2人 |
| 12) 総合的な学習の時間 | → 5人 |

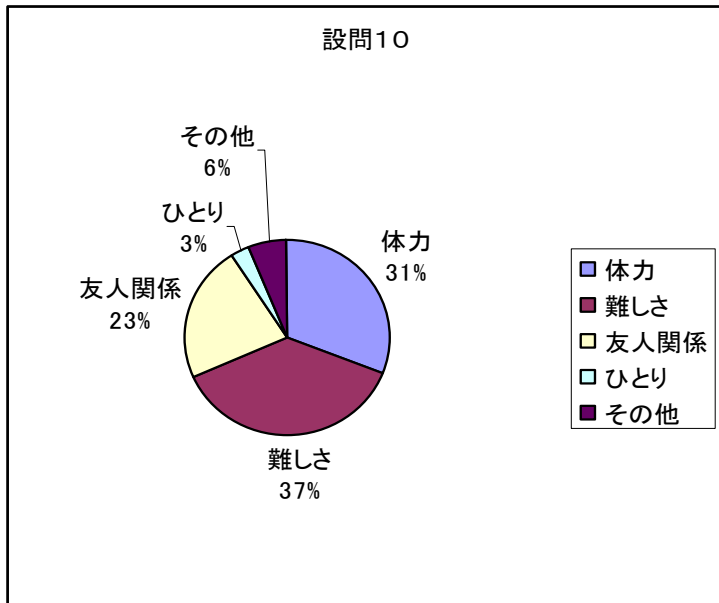


設問9 (複数回答可)

行事名：運動会、合唱コンクール、国語すべて、保健体育の保健とダンス以外

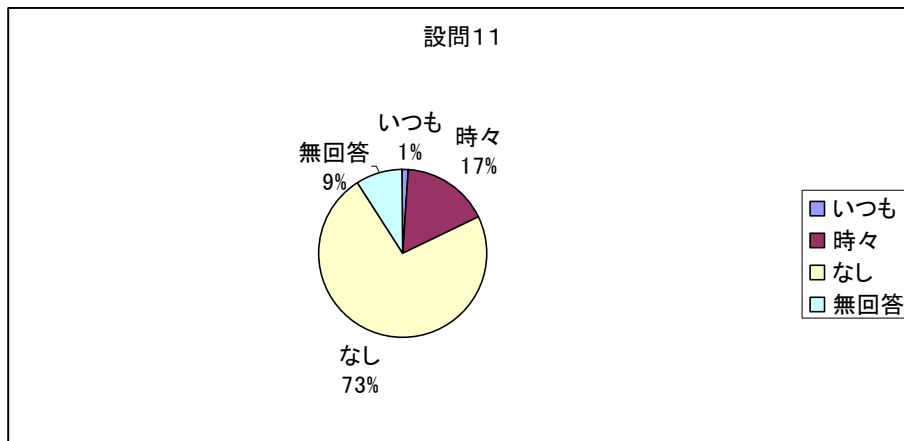
設問10

- 1) 22人
- 2) 26人
- 3) 16人
- 4) 2人
- 5) 4人 (すぐ悪口をいってくる、先生の説明が悪い、おきる時間、クラスの人によくいらいらするから、できない問題があったとき、先生から厳しいことを言われたとき、勉強と部活の両立、難しいから、分かってないのに次に次にいくから)



設問 1 1

- 1) いつも → 2 人
 2) 時々 → 2 7 人
 3) 感じたことはない → 1 1 7 人
 無回答 → 1 5 人



設問 1 2

- | | いつも | 時々 |
|----|-----|-------|
| 1) | 5 人 | 4 人 |
| 2) | 2 人 | 3 人 |
| 3) | 7 人 | 1 3 人 |
| 4) | 3 人 | 7 人 |

5) その他 2人(部活動、友達と一緒にいても感じる)

設問13

具体的な場面

- ・ 休み時間に、まわりは友達としゃべったり遊んだりしているのを見たとき
- ・ 話す人がいないとき
- ・ 3人で2人が話をしているとき
- ・ 考え事をしているとき
- ・ 親友だと思う人が親友じゃないみたいなかんじのとき
- ・ いつもいる人が昼休みなどにいないとき
- ・ へんな目でみられたり、相手をみたら目をそらされたりするとき
- ・ 自分ですきでなっているので分からない
- ・ 休み時間に一人だけ椅子に座っていて、友達が自分のところにこないとき
- ・ いつもいる人がとられてしまったと思い込んでしまい、独りと思ってしまう
- ・ 友達が休みの時で話す相手がないとき
- ・ 何もしていないのに急に無視をしてきたとき
- ・ 昼休みや移動教室
- ・ 部活のペア決めで一人になるとき
- ・ 今までの友達が冷たかったとき
- ・ 仲のいい友達が目の前でこしょこしょ話をするとき

単純分析

<達成感>

- ・「達成感を感じたことがある」生徒は73%であり、「感じたことがない」の25%をうわまわっている。
- ・「達成感を感じたことがある場面」は、「部活動」35%、「各教科」26%、「行事」25%、「係活動」や個人活動が14%である。
- ・「達成感を感じる教科など」は、「国語」15%、「数学」14%、「技・家」12%、「理科」「音楽」「美術」がそれぞれ11%、「保体」7%、「外国語」6%、「社会」5%、「特活」4%、「道徳」「総合」がそれぞれ2%と続く。その理由として、「問題が解けた・実技が出来た・テストの点がよかった・暗記ができた」「努力が実った」「作品が完成したとき」「合唱が歌い終わったとき」「挙手をしたとき」などがあげられている。
- ・「達成感を感じた行事名」では、体育大会や合唱コンクールが群を抜き、それらの行事を通してがんばりと笑顔を得ることができたことがその理由としてあげられている。
- ・「達成感を感じたことがない」理由は、「目標を達成したことがないから」が30%、「何か取り組みたいこと、やりとげようと思えることがないから」が28%と多い。

<つらい>

- ・「つらいと感じたことがある」生徒と「つらいと感じたことがない」生徒が同数の48%である。
 - ・「つらいと感じたことがある場面」は、「授業」38%、「部活」35%、「その他」13%、「係活動」9%と続く。「行事」は5%と少ない。「その他」の具体的内容には、「友人関係・悪口を言われてそれを聞いているとき」「友達がうまく作れない」が目立つ。「宿題が多い」「家での勉強」など、個人的理由が続く。
 - ・「つらいと感じる教科など」は、「社会」「数学」がそれぞれ15%、「国語」14%、「外国語」13%、「理科」11%、「保体」「技・家」がそれぞれ8%、「総合」6%、「音楽」5%、「特活」3%、「美術」2%、「道徳」0%である。
- 「つらいと感じる」理由として、「与えられた課題や内容が難しいから」が37%、「体力的にきついから」が31%、「友人関係がうまくいっていないから」が2

3%、「その他」6%、「ひとりぼっちだから」3%と続く。他方「その他」の具体的内容には、「すぐ悪口を言われる」「クラスの者にイライラする」と友達に関するものと、「教師の説明が悪い」「分からないのに進む」と授業に関するものであり、「勉強と部活の両立」という回答もある。

<孤独>

- ・「いつも、あるいは時々孤独を感じている」生徒が18%、「孤独を感じていない」生徒が73%である。
- ・「孤独をかんじたことがある場面」は、圧倒的に「友達」との関係で、「話す相手がない」「親友だったのにそうでなくなったとき」「無視されたとき」「周りが楽しそうに話しているとき」などである。その他、「考えごとをしているとき」「部活のペア決めで一人になったとき」「自分が好きでしている」などが続く。

各項目間の分析

次に、表のように、各項目間での関係を念頭においた分析を行うことにした。表については、「達成感を感じたことがある」は「達成感○」、縦軸にどの場面であるかを示し、「達成感を感じたことはない」は「達成感×」で示した。横軸には、「つらいと感じたことがある・孤独を感じたことがある」は「辛い○孤独○」、「つらいと感じたことがある・孤独を感じたことはない」は「辛い○孤独×」、「つらいと感じたことはない・孤独を感じたことがある」は「辛い×孤独○」、「つらいと感じたことはない・孤独を感じたことはない」は「辛い×孤独×」で示した。この縦軸と横軸の関係で整理したものが次表である。なお、達成感の項目だけに答えた11については、分析不能として処理した。

達成感○	辛い○孤独○	辛い○孤独×	辛い×孤独○	辛い×孤独×
教科で	0	7	1	11
行事で	2	9	0	12
部活動で	5	7	3	17
係・その他で	2	4	0	4
複数で	9	8	0	12

小計	18	35	4	56
達成感×	8	13	3	13
総計	26	48	7	69
分析不能	1	1		

表中とくに目立つ点について分析する。

<達成感がある>を基準に

- ・ 達成感があれば、その達成する場面が何であれ、おおむね「つらいと感じることがなく、孤独を感じることもない」。その割合は、35%である。
- ・ 達成感があっても、「孤独は感じることはない」が、「つらいと感じることはある」その内容を以下のように整理する。

／辛い場面	教科で	行事で	部活動で	係・その他で	複数で
達成は教科で	3		3	1	
その理由	体力・難しい		友達		
達成は行事で			4	3	2
その理由			監督の厳しさ・体力	友達・勉強との両立	課外のクラブ
達成は部活動で	1		3		3
その理由	体力		嫌な態度・体力・友達		友達
係・その他で	3			1	
その理由	難しい			難しい	
複数で	3		1	2	2
その理由	難しい		体力	起床時間・友達	難しい
総計	10	0	11	7	7

いろいろな場面で達成感があっても、「つらいと感じる」場面は、教科や部活動での場面が多い。理由は、教科では難しさがあげられているが、部活動では友達との関係や体力面でのつらさ、厳しさがあげられている。全体的にも、つらさを感じさせる要因として「友達」との関係が理由としてあげられているのが目につく。起床の時間がつらいというもある。また、行事では「つらく感じることはない」のも目立つ。

・達成感があっても、「つらいと感じることがあり、孤独を感じることもある」もみすごせない。

その場面を、「つらい場面」を横軸に、「孤独を感じることもある」場面について、以下のように整理する。

／つらい場面	教科で	行事で	部活で	係・その他で	複数で
達成は教科で					
孤独場面					
達成は行事で			1		1
孤独場面			部活で		部活で
達成は部活動で			3		2
孤独場面			登校・放課後時に友達・昼休み一人		無視される・話し相手いない
係・その他で	1		1		
孤独場面	友達いない・無視		昼休み一人		
複数で	2		1	3	3
孤独場面	友達をとられる・冷たくなった友達		話し相手いない	親友ではないのか・話し相手いない・3人組の不和	考え中に・授業中・話し相手いない・移動教室に行くとき
総計	3	0	6	3	6

達成場面がどのようであっても、「つらく感じることもある」場面は、部活であることが多いが、行事でつらく感じることはない点が注目される。注目したい「孤独を感じることもある」場面は、友達関係がうまくいかないことによるものが圧倒的に多い。

- ・達成感があり、つらいことはないのに、孤独感を感じる場面については、部活中や放課後に2人組を作る際いつも一人となる場面や、休み時間や昼休みに一人になったり変な目で見られたりする場面があげられている。

<達成感がない>を基準に

- ・達成感がない理由を以下に整理した。

気力など×	取組×	仲間×	目標達成×	承認×	複数	その他
1	10		12	2	9	3

達成感がない理由は「目標に達したことがない」が一番多く、「取り組みたいこと、やりとげようと思えることがない」が続く。複数回答でも、この2つが多く記されている。

- ・達成感はなく、「つらいと感じているが、孤独感はない」と「つらくも孤独感もない」が同数である。「つらいと感じているが、孤独感はない」について、どんな場面で「つらいと感じているのかを次のように整理する。

／つらい場面	教科で	行事で	部活で	係・その他で	複数で
気力・体力×	1				
取組×	1		1	1	1
仲間×					
目標達成×	2				
承認×		1			
複数	1				
その他	2		1		1
	7	1	2	1	2

達成感を感じていない理由は、その他にも含めて「目標を達成できなかつたり、面倒だつたり、やっても充実感がない」といったものがあげられており、「つらいと感じている」場面は、「教科」の場面が多く、国語、数学、理科、外国語に多くかたよっている。

- ・ 達成感を感じていないし、「つらいと感じてはいないが、孤独を感じている」ときと場面は、登校時、休み時間・昼休み、放課後で、話し相手がいなくなつたり、シカトされたりするときと答えている。
- ・ 達成感を感じていないし、「つらいと感じるし、孤独も感じている」について以下のよ
うに整理する。全体の8%を占める。

／つらい場面	教科で	行事で	部活で	係・その他で	複数で
気力・体力×					
孤独場面					
取組×					
孤独場面					
仲間×					
孤独場面					
目標達成×				1	2
孤独場面				友達の無視	友達関係
承認×					
孤独場面					
複数			2	1	1
孤独場面			友達の楽しさを見て・誰とも話せない	友達作れない	自分で好きで
その他				1	
孤独場面				友達の内緒話	
総計	0	0	2	3	3

達成感を感じない場面は、「目標に達成したことがない」や「取り組みたいこと、やりとげようと思えることがない」が多く、「つらいと感じる」場面は、部活動と複数回答中の教科や、その他の友達関係が続く。「孤独を感じる」場面は、圧倒的に「友達との関係」が多い。

4 アンケート調査から考えられる中学校における "well-being"

今回の調査を行った A 中学校では、7割強の生徒が「達成感を感じている」ことに安堵するとともに、2割強の生徒が「達成感を感じていない」ことが明らかになった。

しかし、「達成感をどこかで感じていれば」、「つらさ」も「孤独」も感じない生徒が35%にのぼることが確認され、いかに学校で「達成感を感じる」場面を準備することが必要であるかが浮き彫りになった。また、「達成感を感じた」場面は、授業での場面より「部活動」の場面が多く、「行事」の場面も次に続くことが明らかとなり、学力重視にシフトする現状から授業時数増にともなう行事削減へと向かう中で、部活動や行事をむしろ手厚く保持すべきではないかということが読み取れる。

しかし、「部活」、「授業」、「行事」で達成感を感じる一方、「つらさを感じる」場面として、「授業」や「部活動」場面もあげられている。「部活動」での達成感は、「部活動」での「つらさ」を克服してこそ得られるとも言えるかもしれない。その点、「授業」での達成感は、必ずしも「授業」での「つらさ」から派生するという思いにはつながっていないようにうかがえた。また「行事」で「つらいと感じる」ことはほとんどない点が注目される。体育大会や合唱コンクールでの最後の勝利や達成感が、そこに至る「つらさ」を忘れさせているのであろうか。

他方、「教科」での達成感、国語、数学でとくに感じ、技術・家庭、音楽、美術、理科などが続く一方、社会、数学、国語、外国語、理科と、いわゆる受験教科で「つらいと感じている」生徒がいることも注目される。教科での「達成感を感じる」理由として「問題を解けたとき」や「作品などを完成させたとき」「できない技術ができるようになった」とされる一方、「つらいと感じる」理由は、「難しいから」「どんどん進むから」などがあり、学習場面での「分かる授業・できる授業」の工夫が必要なことが浮き彫りになる。また、学習場面での「つらさ」は、その後の「達成感」に必ずしもつながっていないことも浮き彫りになっており、「達成感」につながるような手だてを講じる必要がある。

DeSeCo や センの理論を借りれば、「学校は、どの生徒にも対応できる授業内容を準備し、どの生徒にもその内容を分からせる教授技術」で、授業に臨ませる必要があると言えよう。卑近な例で示すと、「どの定食を食べるかどうか、あるいは定食を食べるかどうかは分からないが、生徒に食べる選択の自由を与えることのできる」定食コーナーのようなものを、授業の場面を想定して設ける必要があると言える。

また、上記場面を準備できない場合には、今の段階では、授業以外に、生徒の「達成感を感じさせる」場面としての行事や部活動への支援やそのあり方を考えることが一層望まれることになるとも言える。

他方、「孤独を感じている」割合は、助川氏報告の29.8%を下回る18%にとどまっていることには安堵した。しかし「孤独を感じている」場面は、学校のどの場面でもあり得、その理由の大半が「友達との関係がうまく行かなかつたり、友達から無視されている」ことから生じていることが浮き彫りになった。思春期にあたる中学生、それも1年次生が入学後ほぼ9ヶ月を経た時期でさえ、彼らの「友達作りと友達との関係をうまく運ぶ」方策への対応が学校に望まれると言える。中学校における“well-being”の根底には、友達作りを考える場が必要なことを、今回の調査が物語っている。

最後に、音楽と美術は、本研究当初の所感に変わらず、「達成感を感じる」場面を提供できる教科ではあったことと、その理由も「合唱や創作の場面では、出来はともかくも最終的に感動場面があるから」ということを確認できた。

そして、中学生に学校でwell-beingな場面を感じさせるには、学校は、友達関係を良好に保てる教育環境を整え、とにかく、個に応じて、さまざまな場面で“達成感”を感じる場面をどれだけ準備できるか、にかかっていると見える。